

第 1 章

県民交流広場の取組事例

～ 地域コミュニティ・アワード出展地区等 特色ある取組 ～

地域づくりの
課題と目標

わがまち井吹台は、平成5年に神戸市最後のニュータウンと言われてまち開きが行われました。人口 27,000 人、地域の東西にある小学校はともに 1,200 人を超えています。ニュータウンと言われても、18 年経つと高齢化が少しずつ及び寄っているため、これからも、この町で安心して暮らしたいと誰もが願っています。元気に働けるうちに、地域でお役に立って、年をとって助けが必要になった時に、元気な時に働いた時間をサービスとして受け取る仕組みがあれば良いと考え、地域のために活動した時間を貯蓄出来る「ふくし銀行」を設立しました。



【福祉避難訓練】



【未就園児運動会】

地域の資源を生かした活動を展開

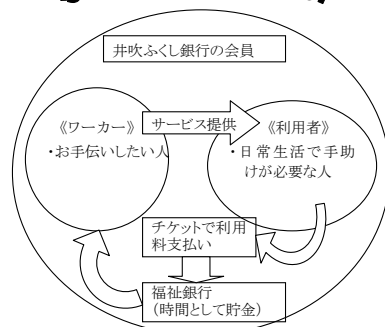
「ふくし銀行」は会員制で、年会費 1,000 円。「ふくし銀行」に貯蓄した預託金を使って、外出介助、病院の付添、買い物などのサービスを地域住民が利用できる制度です。ここでは、ワーカー（手伝う人）も会員になります。時間の経過とともに、手伝う人から助けが必要な人にみんながなります。誰もが、必要とされる町を目指しています。

高齢者にとって、介護保険はうれしい制度ですが、介護保険対象外の制度がある地域で 1 日でも長く住み続けたいと願う人にとっては「ふくし銀行」は大変うれしい制度です。

活動は、包括支援センター、民生委員、ボランティア、NPO 法人の人たちが協力しながら行っています。

また、福祉避難訓練を実施。訓練を通し、地域で暮らす障害のある方々にも安心して頂けるように各団体が連携しています。

ふくし銀行のしくみ



未就園児親子の運動会

いまだ開発途中の井吹台では未就園児が増え、東の小学校では在校生 1,200 人から 1,800 人に膨れ上がると予測されています。引っ越しをしてきた若い世帯は、子供たちが安心して遊べる居場所を求めて地域福祉センターや児童館などにあふれています。

井吹台では、地域諸団体と協力して、未就園児親子が安心して交流できる運動会「みんな あつまれ おもいで広場」を開催し、22 年度には、親子 2500 人の参加者がありました。みんな楽しい時間を過ごしました。

これまでの
成果や
今後の予定

地域の共助のシステムは、23 年度には 3 年目を迎えます。ふくし銀行を地域に定着させ、また諸団体との連携を取りながら、他の町にもふくし銀行の制度が広がり多くの人が会員となっていていただくとうれしいです。

拠点施設



市立井吹東地域福祉センター

《主な整備内容：改修》

- 和室の洋室化、手すりの設置等のバリアフリー化
- 間仕切り変更による活動スペースの拡充
- 備品の整備（机、椅子、置き畳など）

連絡先

井吹東ふれあいのまちづくり協議会
TEL / FAX 078-996-3569

地域づくりの
課題と目標

これまで、地域の拠点となっている地域福祉センターには、限られた人のみが、多く来られていたことから、これからは、年齢を問わず幅広い人々に来ていただき、交流を持ちたいと思っていました。

そのため、世代間住民間の交流を通じた幅広く心やさしいコミュニティづくりを目標に、県民交流広場事業を通じて少しでも多くの方が地域とのつながりを増やしていけるようになりたいと願っています。

成人病予防のための料理教室

調理室の改築により、導入した大人数に対応できるレンジ台を活用し、メタボ対策のための成人病予防メニューを管理栄養士の先生に教えていただき、若いママから年配の方まで、和気あいあいと調理しています。

作った料理を試食後、先生から食材の栄養について詳しい説明をしていただきます。



【成人病予防の料理教室】

なつかしの映画喫茶

高齢者に参加してもらえるなつかしの映画会を実施しています。

月 2 回、午後のひと時に、洋画・邦画を交互に上映し、その後コーヒー・紅茶（ケーキ付）でくつろいでいただきます。お茶を飲みながら、映画の内容から当時の思い出話など、話の輪が広がり、男性の方々も次回を楽しみにして下さるようになりました。

パソコン教室

今や時代は、パソコンを使えなくては・・・。

そこで年配の方を対象に、少人数グループで、電源の入れ方から、キーボードの扱い方、インターネットの楽しみ方など一人ずつにわかりやすく、きめの細かい指導を行っています。パソコンに触れることにより、気持ちも若返り、視野も広がったと喜ばれ、次の教室募集を待たれている状態です。

子育てサークル

就学前の幼児と保護者を対象に月 2 回、子育てサークルを行っています。保育士さんによる楽しい遊びやエアロビの先生による親子体操など様々なプログラムを用意し、ヤングママの居場所として、また幼児が他人と接する場として、親子共々お友達づくりの場となっています。



【子育てサークルの活動】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場事業を行うことにより、男性の参加者も増え、世代間の交流も行われるようになりました。

今後は、北五葉地域ぐるみで活動が推進できるように、若いボランティアの発掘や、広報活動にも力を注ぎたいと考えています。

拠点施設



市立北五葉地域福祉センター

《主な整備内容：改修》

- 和室の洋室化やトイレの洋式化、スロープの設置などバリアフリー化
- 「食」を通じた交流のための調理スペースの改修
- 備品の整備（パソコン、机、椅子、テレビなど）

連絡先

北五葉ふれあいのまちづくり協議会
TEL / FAX 078-593-8526

地域づくりの
課題と目標

地域住民に合った新たな各種行事を模索しながら、現在実施している住民同士の交流に新しい試みも取り入れ、教養を高め伝統文化を世代間で受け継ぐことや広報誌勉強会、防犯研究会などの事業を開催しています。

活動を行うにあたり、地域での情報拠点としての機能の充実を図り、住民同士がお互いに助け合い協力し合う、住みよいまちづくりを目標としています。また、隣接する中学校にも参加を呼びかけ、世代を越えた交流を心がけています。



【広報勉強会】

広報誌勉強会

県民交流広場事業による拠点整備を契機に各活動の活発化を図るため、パソコンを使って広報誌を作成する勉強会を実施しています。

地域内友誼団体ですでに発行している広報誌、自治会便りなどを参考に、広報誌を発行していない団体が、独自に広報誌を発行していけるように、情報の収集、誌面の作成、情報伝達の方法などのノウハウを学び、共有できる勉強会としています。今後は、パソコンの技術習得もより力をいれていきたいと計画しています。

防犯研究会

地域活動に携わっていると、いろいろな問題で困ったり、悩んだりすることがあります。また、高齢者やひとり暮らしの人が増え、悪質事件に巻き込まれる危険も増加しています。こうした問題を共有し、安心安全のまちづくりにつながるよう、2カ月に一度集い、地域内で連携をとりながら情報交換する研修会を実施しています。

伝統文化の活動

書道、華道、茶道、囲碁といった伝統活動を担ってきた方が地域に多くおられます。私たちはその伝統文化を継承する活動を通じて、世代間の交流を深めています。家庭的な雰囲気の中で子どもたちを育てていきたいと考え、個人、団体を問わず参加しやすい雰囲気づくりに努め、県民交流広場事業への参加を募っています。



【伝統文化の活動：囲碁・茶道・華道】

これまでの
成果や
今後の予定

県民交流広場事業を通じて、同じ興味をもつ方々の参加が増え、中学生も親しみをもってセンターに来てくれるようになり、三世代交流事業が充実してきました。

実施している伝統文化活動も好評で、今後も、同好グループを通じてもっと地域の方々に参加を呼び掛けるとともに、指導するボランティアスタッフの増加を図りたいと思っています。

拠点施設



市立高取山地域福祉センター

《主な整備内容：改修》

- 誰もが気軽に出入りできるよう出入り口の改修
- 備品の整備（パソコン、プリンター、デジカメ、プロジェクターなど）

連絡先

高取山ふれあいのまちづくり協議会

TEL 078-631-4920 / FAX 078-631-4925

地域づくりの 課題と目標

地域のコミュニティが希薄化し、「おたがいが支え合い助け合う」という機能が低下する中で、高齢者や子どもたちをはじめとして、地域で生活がしにくい環境が広がっています。そういう傾向に歯止めをかけるとともに、今日的に、地域自治機能を高め「支え合い」ができる地域システムを構築したいという思いで、試行錯誤しながら、広場活動を続けています。

地域通貨「おう」と地域イベントの実施など

地域通貨「おう」を地域活動のツールとして発行し、交流広場で流通管理しています。地域イベントとして、実行委員会形式の名和夏まつり、地域を照らすコンサート、「おう」クリスマスイベント、「おう」桜まつりを毎年度継続して開催し、地域住民の交流と合わせて、「おう」の流通のきっかけにつなげています。

「おう」は、家事のお手伝いや話し相手など地域の助け合い活動に使ってもらうほか、地域内の商店街でも使用できます。

この他、広場事業としては、①親子ふれあい広場、②高齢者ふれあい喫茶、③着付け教室、④パソコンサークル、⑤フラワーアレンジメント、⑥高齢者よろず相談、⑦ストレッチ体操、⑧野菜市を実施しています。



【おう桜まつり 抽選会】

要介護・要支援高齢者生活サポートモデル事業

モデル事業として、平成21年度・22年度の2年間、ボランティアスタッフによる要介護・要支援高齢者の生活サポート事業（いわゆる、すきま介護事業）を行ってきました。

このモデル事業の実績を踏まえ、23年度は尼崎市に対する市民提案型協働事業として提案する予定で、現在その企画案について、尼崎市高齢介護課と協議を行っているところです。

この他、継続的な活動の実施に向けて、①名月姫コンテスト及び名月姫カレンダーの作成や、②名月姫風鈴（メイドインあまがさきのグランプリ受賞）の製作を行い、行事等で販売するなど自主財源の確保に努めています。



【大成中プラスバンドマーチング】

これまでの 成果や 今後の予定

県民交流広場の活動として、22年度末でちょうど5年を迎えます。当初5年というスパンが、私たちの取り組み目標において、長期的・戦略的に事業展開を図っていかれるものと考えておりましたが、今に至れば、余りにも時間の流れが速く、当初の思いには到底到達しえていないことを実感しています。実際の地域での事業展開は、デスクワークのようにはいかないことを改めて思い知らされました。

現在の到達点は、地域の人が、私たちの事業展開にようやく理解を示してくれるようになってきた段階であると認識しています。

今後は、さらに活動を広げるためにも、活動財源の確保と、人材の確保のために、さらなる工夫をどうしていくのか・・・知恵の絞りどころです。ここを越えれば次の展望が開けると思っています。

拠点施設



尾浜御園福祉会館

《主な整備内容：改修》

- 事務室スペースの設置
- バリアフリー化
- 備品の整備（パソコン、机、椅子等）

連絡先

尾浜地区県民交流広場地域推進委員会
TEL / FAX 06-6427-3386

地域づくりの
課題と目標

まちびらきから20年が経過しますが、住民の居住年数が浅いので、全ての住民が地域への愛着を感じ、わがまち意識を醸成していくことが課題となっています。ニュータウン以前の時代も含めた地域の記憶を引き継ぎ、ふるさとづくりを進める必要があります。そのために、活動拠点の充実（立地と設備を含め総合的な利便性の向上）や、住民交流の促進（新興住宅地でのふるさとづくり）を進めていきます。

住民ボランティアによる「カフェ・ナシオン」の運営

活動拠点を「ナシオンホール」内に設置し、住民ボランティアによる「カフェ・ナシオン」を毎週火曜から金曜までの午前11時から午後3時まで営業（但し、春、夏、冬休み中は休業）しています。

カフェは、約30名の登録ボランティアが交代勤務しながら運営し、コーヒー、紅茶、ミルク、ジュース、ピラフ、五目チャーハン、カレー等のメニューやワンディシェフの手作りケーキ・手作りランチを提供しています。また、住民の手作りの品や障害者施設のクッキー等も委託販売しています。

しかしながら、平成21年度、水道光熱費等の自弁は達成しましたが、収益をあげるには至っていません。

一般住民の利用も徐々に増えていますが、まだまだ周知されていると言える状況ではなく、また、ボランティアの安定確保も最大の課題となっており、当分は不安を抱えた運営が続きます。



【カフェナシオン】

「ふれあい朝市」の運営

毎月1回、拠点施設内で野菜を中心とした朝市を開催しています。朝市では、NPO法人「とんとん」の出店で、近隣農家の野菜や、時折、県内小規模集落の作物を販売しています。

約10名の地域ボランティアが、広報、会場設営、販売補助、喫茶コーナー運営等を担当しながら、朝市を運営しています。喫茶コーナーでは、コーヒー、紅茶、ぜんざい、手作りケーキ等を実費により提供しています。

しかしながら、平成21年7月の開始当初は、来客100名以上、売上10万円以上と盛況でしたが、その後減少を続け、再開の意向はあるものの、現在では抜本的な見直しを迫られる状況に至っています。



【ふれあい朝市】

これまでの
成果や
今後の予定

ナシオンホールは、立地や設備の飛躍的の充実により、利便性は大幅に向上し、地域の拠点として最高の機能を発揮しています。

事業自体の実績はあがっていますが、住民交流の成果は現時点では評価しがたい状況です。新規分譲に伴い新住民が流入し続けていることや震災前住民に対して震災後住民が2倍以上になったことから、まちづくりへの意識、意欲にギャップが生じているように見え、また、長引く不況で地域に関与できる余裕が失われているとも思われます。当地において、住民交流促進はなお長期にわたる課題であり、視点を変え、手法を変え試行錯誤しながらも、愚直に取組み続けるべき活動だと考えています。

拠点施設



斜行EV上部ステーション2階ホール

《主な整備内容：改修》

- 多目的室の間仕切り
- 調理室、身障者用トイレの新設
- 備品の整備（机、椅子、厨房機器等）

連絡先

東山台まちづくり推進委員会

TEL 0797-61-3615 / FAX 0797-62-9117

地域づくりの 課題と目標

無縁社会という言葉を目にする機会が増えました。今後、「身近な地域での出会いの場」や「いきがい支援の場」が、ますます必要になってくると思われます。「コミュニティルーム武庫」には、社協武庫支部をはじめとする地縁型の団体や、NPO法人など組織力のある大きな団体から子育てサークルのような小さな団体まで32団体が登録し、会議や交流の場として使用されています。県民交流広場の助成を受け(事業費)、子育て支援や世代間交流など登録団体が連携し、企画実施するグループ連携事業を開催することで、地域での出会いの場を提供してきました。

また、武庫地区内の県民交流広場(8館)が連携することで、広場間の横のつながりができ、地域コミュニティの輪が広がるのではないかと考え、県民交流広場連携事業を企画実施しました。



【コミュニティルーム武庫運営委員会全体会】

武庫地区における県民交流広場交流会の開催

平成18年度に県民交流広場の助成をうけた「コミュニティルーム武庫」では、登録団体の連携事業を年間10事業以上実施してきました。また、武庫地区内に次々と県民交流広場事業が誕生してきたことから、平成21年度に、県民交流広場交流会を企画し、会館の管理運営や事業等の課題などを話し合い、有意義な情報交換の場となり、県民交流広場のネットワークができました。

県民交流広場連携事業「ジャズコンサート」の開催

ジャズコンサートを開催し、地域住民に県民交流広場を知り、活用してもらうPRの場、「身近な地域での出会いの場」や「いきがい支援の場」を提供しています。ジャズコンサートを選んだ理由は、尼崎には昭和のはじめダンスホールが4カ所あり、社交の場としてにぎわっていました。シニア世代の皆さんにとって、青春時代を思い出し楽しんでいただける企画ではないかと考えたからです。実施の結果、武庫地区会館がダンスホールになり、思い出話に花が咲き生演奏で踊れることも好評でした。



【ジャズコンサート】

これまでの 成果や 今後の予定

平成22年度の交流会(8団体参加)では、今年度新たに申請した2団体とのネットワークもできました。また、前年の交流会で先輩団体からの助言を受け運営方法を見直し、利用率が上がった会館の報告もありました。広場間のつながりが深まり、コミュニティルーム武庫主催の「ジャズコンサート」を、事業費や役割を分担し、開催しようという意見が出て、武庫地区の県民交流広場の連携事業になりました。

会館の紹介パネルの展示やコンサート前の会館代表者による会館や県民交流広場事業のPRなど、地域に皆さんに各会館を知ってもらう機会となっています。

「ジャズコンサート」は、昨年参加した方々からも問い合わせがあり、地域でも定着しつつある事業となってきています。この事業が「身近な出会いの場」や「セカンドライフのいきがいをみつける場」として、地域の皆さんに活用されるよう今後も継続し取り組んでいきたいと思えます。

拠点施設



市立コミュニティルーム武庫

《主な整備内容：改修》

- 出入り口庇設置
- 自転車置き場テント設置
- 備品の整備(プリンター、コピー機、パイプテント等)

連絡先

コミュニティルーム武庫運営委員会

TEL 06-6431-7884(事務局：武庫地域振興センター内) / FAX 06-6431-9542

地域づくりの 課題と目標

小浜小学校区は古くからの歴史を有する地区と、農地が宅地化の流れのなかでできた新しい地区とに大別されます。そのため、先祖伝来土着の人と、他府県・他市町等からの転入者の新旧住民が居住する上、戸建住宅や集合住宅も混在し、地域活動への温度差があり、地域ぐるみのコミュニケーションを図るのが難しいところです。

そこで、自らが住んでいる地域のことをもっと知ってもらうとともに、校区全体のふれあい交流活動を促進し、「住んで良かった小浜小学校区」と思える地域にすることを目標に活動をしています。

地域の資源を活かした活動を展開

平成18年度に待望の活動拠点である「小浜まち協会館」がオープンしました。「自分たちの地域は自分たちでよくしていく！」というみんなの思いが、高齢者の居場所づくりや交流のための「いきいきサロン」、健康づくりのための「健康体操」、小学生等を対象にする「ミニ児童館」など多様な活動につながっています。また、男性の地域活動への機会として新たに「囲碁・将棋・麻雀教室」を始めたり、「ミニ児童館」では小学生だけでなく、中高校生にも対象を広げバドミントンや卓球などを楽しんでもらうなど活動が広がっています。

「わがまちの再発見」をしてもらうために、地元の歴史や地理、文化などを取り入れた「かるた」や「すごろく」の作成のほか、校区内の「まちの散策案内板」を製作して多くの方に小浜を知ってもらうなど、地域の資源を活かした活動も展開しています。



【ミニ児童館】

子どもの安全・安心

小浜小学校区では、子どもの安全・安心にも特に力を入れています。毎月第3木曜日に校区を4つに分けて、子どもの安全、防犯、環境、交通安全などの視点からチェックをしています。

そして、パトロール終了後の報告会では、グループごとに報告・情報交換を行い、必要に応じて危険箇所など気づいたことは行政等各関係団体に申し入れることとしています。

また、これ以外にも小浜小学校区安全対策推進委員会と連携したパトロールや研修会も随時行っており、学校、家庭、地域が協力し校区が一致団結して児童・園児の見守り活動を行っています。



【パトロール終了後の報告会】

これまでの 成果や 今後の予定

県民交流広場事業に取り組みはじめ5年目を迎えましたが、新たな取り組みや活動の広がりなどの効果が表れています。その一方で役員のなり手がなく、同じ人がいつまでも役員をする状況にあり、活動のリーダーやスタッフが育っていません。そのため、参加者の中から少しずつでも協力をお願いしながら活動をしています。今後、こうした中からリーダーやスタッフが育っていけばと期待しています。

今年度は「ボランティアって楽しいよ」シリーズとして、地域福祉 IN 小浜を毎月1回身近なテーマで楽しく学習をしています。参加者も少しずつ増えてきています。

拠点施設



小浜小学校区まちづくり協議会会館

《主な整備内容：改修》

- 事務室の設置
- キッチン・トイレ改修、床のバリアフリー化
- 備品の整備（パソコン、コピー機、プロジェクター、放送機器等）

連絡先

小浜小学校区まちづくり協議会

TEL / FAX 0790-86-2351(小浜まち協会館)

地域づくりの 課題と目標

昔からつづく地区と新興住宅地からなるけやき坂小学校区は、急激に高齢化が進むなか、まだまだ地域力の弱い状況にあります。そこで、地域に元気と活力を高めるために、新旧住民や世代間の一層の交流促進、高齢者の生きがいをづくりや子どもの健全育成をはじめ、地域住民が安全で快適に暮らせるよう、治安の悪化に対する防犯・防災対策や、便利で美しい住環境づくりを住民一丸となって進めています。

「交流会館けやき」で様々な事業を展開

地域住民が気軽に集える「場」、つながりあえる「場」、多様なニーズに応える協働の「場」として「交流会館けやき」が生まれました。誰もが利用しやすく、くつろぎと安らぎの場づくりをモットーに、多くの住民に楽しんで参加していただける事業を展開しています。

コーヒーや紅茶を飲みながらおしゃべりを楽しむ「ふれあい喫茶」、囲碁・将棋・音楽鑑賞などを楽しむ「ふれあいサロン」、懐かしい映画などを一緒に楽しむ「映画鑑賞会」など、毎回多くの方々の参加があります。これら交流会館で行う様々な事業については、世話人（ボランティア）を募集し運営を行っています。また、実施する事業についても事業提案を募集するなど、多くの住民を巻き込んだ活動を心掛けています。

また、地域防犯の拠点として警察官の立ち寄り所としての機能や、絵画・写真・手芸などの作品展示などにも活用しています。



【ふれあい喫茶】

交流会館恒例の夏祭り

交流会館恒例の夏まつりも平成22年で2回目を迎えました。猛暑のこの日は、チケットの売れ行きも上々で、ハヤシライスのお店には、今年も長い行列ができ、かき氷が大人気でした。子ども服の激安販売や、おもちゃリサイクルなどのほか、子どもたちに人気の鉄道模型の展示・運転やスイカ割り大会、お琴のミニコンサートではたくさんの方が熱心に聴き入りました。

平成22年はたいへんな猛暑の中でしたが、事前作業の会場周辺の草刈りから、テント・机の後片づけまで多くの方々にご協力いただきました。



【交流会館「夏祭」】

これまでの 成果や 今後の予定

平成20年度より県民交流広場事業に取り組み始め、活動回数や活動への参加者が増え、世代間の交流が深まるなどの効果がでています。また、新しい企画やアイデアができるようになったほか、今年度からは、ボランティアの募集を開始して活動継続のための人材確保にも取り組んでいます。

今後は、さらに地域への広報活動をして県民交流広場事業の周知を図り、活動を継続していくとともに、補助期間終了後の自主財源の確保に向けた取り組みも進めていきます。

拠点施設



県民交流広場 サロンけやき坂

《主な整備内容：新築》

- 公民館隣接の市所有地に鉄骨造平屋建、約60㎡を新築
- 備品の整備（テーブル、椅子、玄関靴脱ぎ椅子、ユニット畳、書架、冷蔵庫、電子レンジ、掃除機など）

連絡先

けやき坂小学校区コミュニティ推進協議会
TEL / FAX 072-799-3022

地域づくりの
課題と目標

三田市北東部に位置する農業地帯の当地域では、少子高齢化が進み、農業後継者も減少しているなかでの地域づくりの進め方が課題となっています。

集落排水の整備など生活環境も改善されましたが、急速な都市化を図ることなく、地域の豊かな自然と伝統文化を守り伝えていく、継続的な活動を確立する必要があると考えています。各組織間の連携を密にしながら、安全で明るく元気ある地域づくりを推進していきます。

地域の自然環境保全



【自然豊かな羽束川】

地域を南北に流れる羽束川は、千刈水源の主流となり、神戸市民の大切な水がめとなっています。この羽束川には、特別天然記念物のオオサンショウウオが数多く生息し、初夏には蛍が群れ飛び光景が見られます。コミュニティたかひらでは、この羽束川の水質保全や地域の自然環境の保全に取り組み、地域の財産として後世に残していきたいと考えています。

また、高平は三田市内でもいち早く人権学習に取り組んだ地域であり「人権文化創造の里」をキャッチフレーズに、人権を尊重する考え方や配慮が地域のすみずみに行き渡り、それが各地区や年代を超えて一つの「文化」にまで定着することをめざしています。

配食サービス

一人暮らしの高齢者に対し、毎月1回無料で配食サービスを行っています。この取り組みは、婦人会のメンバーが中心になって20年以上も継続しています。メニューは栄養士が作成したものをベースに品数を加えたり、味付けなどを若干アレンジし、調理から配達までをこなします。

メンバーのほとんどが農家であるため、基本的に米と野菜は持ち寄りで、地元で取れた旬のものを食べてもらおうと色々工夫をしています。県民交流広場事業で調理道具の保管場所ができただけでなく、機能的なキッチンに改修したおかげで、準備・調理・後片づけが効率的にできるようになりました。



【高齢者の配食サービス】

これまでの
成果や
今後の予定

拠点が整備される以前から地域のつながりは強いほうでしたが、自分たちの拠点ができたことで、各団体の横のつながりが生まれやすくなり、今まで以上に連帯感が強まりました。

新たな活動として、「コミュニティたかひら」の構成団体である「高平地区区長会」の呼びかけで、家庭ごみを減らそうと、コンポストによる生ゴミの堆肥化の取り組みも始まりました。地域の宝である自然環境を守りながら、今まで培ってきた地域活動を継続していきたいと考えています。

拠点施設



コミュニティたかひら

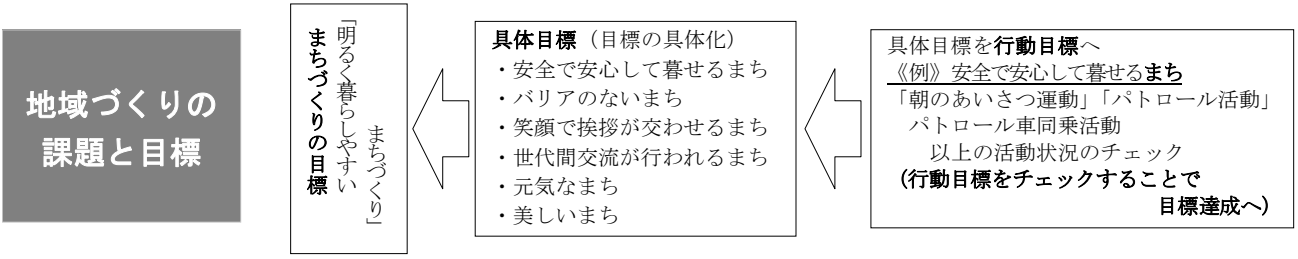
《主な整備内容：改修》

- 調理室の改修
- トイレの水洗化
- 活動に要する備品類の充実整備（パソコン、ビデオデッキ、冷蔵庫等）
- 駐車場の整備

連絡先

コミュニティたかひら
TEL / FAX 079-569-0131（高平地区区長会事務局）

- * 「まちづくりのビジョン・目標・活動・評価の体系化」
- * ビジョン「住民主体のまちづくり」＝「させられる活動」から「自ら進んで参加する活動」へ。



- * 県民交流広場事業の助成を受けて→ (まちづくりの目標を達成するために助成を活用)
- * 住民同士のふれあいを大切にしながら「松が丘のまち」をさらに元気に (活性化)



【「あいさつ運動」子どもとの交流】

「ふれあいガーデン」

- * 校区内の景観上、防犯上の問題地点(1,400㎡)を約750万円かけて整備(事業費の約6割)
- * 整備地を「ふれあいガーデン」と命名し、「花の会々員」を募集
- * 現在40名の会員で具体目標の「元気なまち・世代間交流」をめざし野菜づくり、花づくりに励んでいます
- * 『ふれあいガーデン』の名のとおり花の会々員はもちろん、小学校児童・幼稚園児、保育所の子ども等と「さつま芋、イチゴ・タマネギ」などを一緒に栽培し交流を深めています。

松が丘地区のまちづくり活動

松が丘地区のまちづくり活動は『ソフト』『ハード』の両面からの取り組みを進めています。

課題は《安全・安心問題》《コミュニティづくり》

- ① 「ソフト」面では「あいさつ運動」「パトロール」の実施
 - ② 「ハード」面では 明石市との「協働のまちづくり」《情報提供・情報の共有・協議》で45カ所のバリアの解消、解決を達成
- 《まちを元気に》では「グラウンドゴルフ」「ウォークラリー」「まちを美しくする活動」ほか、各種活動の充実を図っています。



【育った菜】



【小学校児童との交流】



【整備後 整地完了】



【整備前の雑木林】

これまでの成果や今後の予定

「松が丘のまちづくり」は明石市自治基本条例の「協働のまちづくり」を活かし推進しています。今後も明石市をはじめ各種団体と情報提供・共有・協働しながら松が丘のビジョン・目標に向かってまちづくりを推進していきます。

拠点施設



市立松が丘小学校コミュニティ・センター

《主な整備内容：改修》

- 段差解消スロープの設置、空調設備の設置
- 「交流学习園」の整備
- 備品の整備 (パソコン、プロジェクター、スクリーン等)

連絡先

松が丘地区コミュニティ推進協議会

TEL / FAX 078-918-2510 (松が丘小学校コミュニティセンター内)

地域づくりの
課題と目標

住民が気軽に立ち寄り、コミュニティづくりができる居場所を作っています。
従来、文化によるまちづくり活動をしていた各種団体が、交流広場を拠点に、お互いに交流し、文化活動また活動支援などを行い、共に支えあうことのできるまちづくりを目標としています。
広場にいかに多く人が集い交流できるかが課題と考えており、それを解決するため、イベントやコンサートの休憩時間には、ボランティアメンバーが頑張ってお茶席やコーヒー・手作りケーキなどを用意し、ふれあいの場を提供しています。

文化活動の展開

事業開始時に結成した「はりま少年少女合唱団」などによるコンサートの開催など、イベントを通じたコミュニティづくりを進めています。
広場コンサート（地元音大生などの若手演奏家によるクリスマスコンサートや歌とピアノのコンサート、ジャズコンサートなど）年1回、広場寄席（茶道協会の茶席）年2回のほか、はりま少年少女合唱団も参加するはりま音楽祭年1回などのイベントの開催により、住民が参加できる文化活動の中で、各種団体と連携しながらコミュニティづくりを進めています。年間行事は、各種団体代表14名で構成する理事会で決定し、登録された20団体で行事内容や日程等を確認しながら、事業の推進を行っています。



【はりま音楽祭】

料理教室等の開催

住民が主体となった生き生きとした地域づくりを推進するため、美術協会展や各種イベントの開催に加え、大人・男性対象の料理教室（フレンチクッキング）を年7回開催しています。また、親子対象のパンづくり教室・子ども対象のケーキづくり教室を夏休み、冬休みに年6回開催しています。播磨町のマスコットキャラクターやよいちゃん・いせきくんのパンを作ったり、子ども対象のクリスマスケーキづくりでは、持ち帰るケーキの箱に絵を描かせるなど、毎回様々なアイデアが生まれています。この他、青少年を交えた茶道教室、生花教室も実施し、世代間、住民間の交流を図っています。



【広場寄席】

これまでの
成果や
今後の予定

イベントでは、広場寄席・各種コンサート・合唱グループの発表会・町民文化祭・映画会などいつも満席で参加者からは好評を得ています。コーヒー、ケーキ、お茶席もコミュニティづくりの場としてとても好評なので、今後も継続していきたいと考えています。料理教室やパン・ケーキづくり教室も参加者が多く毎回好評です。
また、「職人と語ろう」では様々な職業の方達と小学校6年生が体験学習とディスカッションで交流。欠陥住宅フォーラム&相談会など、幅広い層に向けた活動を開催。
今後は各種団体より参加している登録団体と連携を密にし、組織活動を推進していきたいと考えています。

拠点施設



播磨町中央公民館

《主な整備内容：改修》

- 事務室の設置
- キッチン・トイレ改修、床のバリアフリー化
- 備品の整備（パソコン、コピー機、ロビー用テーブルと椅子、放送・音響設備、プロジェクター、デジタルカメラ、ビデオ等）

連絡先

播磨・県民交流広場協議会
TEL / FAX 079-436-0462

地域づくりの 課題と目標

曾根小学校区内の自治会は、4町（東西南北）により分担運営しています。地域の活動は、地区内 20 組織の各種団体が協力し、曾根町連合自治会のスタッフを中心に運営しています。また、地区内には一人暮らしの高齢者が 320 人余りいるので、その見守り活動を、民生委員、協力委員、福祉委員が中心に行っています。しかし、各団体の構成員が減少傾向にあり、その傾向を阻止し地域の活性を一層進めていく事が課題となっています。今後、地域活性化や安全事業を継続していくため、県民交流広場事業を活用し、世代を超えた地域の拠点として、平成 19 年 3 月 29 日、高砂市教育センター内プール跡地に交流施設「そね.com（そねドットコム）」をオープンさせました。現在、ふれあい喫茶等を運営しながら、広場事業の発展を目指しています。

「灯りゃんせ」

みんなで作る灯りのイベント「灯りゃんせ」を毎年夏に、実施しています。

第 1 回は平成 20 年 8 月 24 日、第 2 回は平成 21 年 8 月 22 日、第 3 回は平成 22 年 8 月 28 日に開催しました。広場や曾根天満宮周辺に様々な灯りがともされ、幻想的な空間が出来あがります。今回は東西南北 4 町がそれぞれ青龍、白虎、朱雀、玄武の絵を貼り付けたオブジェ、曾根小学校 4、5、6 年生の行灯や曾根幼稚園・保育園 4、5 歳児の特大行灯、松陽高校・松陽中学のオブジェを製作。各種団体による模擬店も行われました。



【灯りゃんせ】

ふれあい喫茶

平成 20 年 9 月 10 日に、ふれあい喫茶をオープンしました。ボランティアスタッフの運営で、月曜日から土曜日まで（水曜日は休み）の 9 時から 14 時までの間、営業しています。コーヒーやジュース類、トーストなどを販売し、平成 21 年 11 月 12 日からは、うどんの販売も始めました。毎週土曜日 10 時～15 時はカラオケ喫茶にして、世代間対話スペースや憩いの場になっています。曾根県民交流広場では様々な作品展や展示会を開催することで、多くの住民が広場に集い、子どもから高齢者まで地域の交流が活発に行われるよう工夫しています。



【ふれあい喫茶】

これまでの 成果や 今後の予定

灯りのイベント「灯りゃんせ」をこれまで三回実施しました。また、広場で、ふれあい喫茶を行うにあたって、曾根保育園の園児が作成した壁飾りで広場の壁を飾ったり、曾根町住民の作品展や子どもたちの夏休み作品展など行うなど、住民が一体となった取組をしています。この他、曾根のまち探友会では曾根のまち歴史学習会などを開き、地域交流を行いました。

広場で、ふれあい喫茶や様々な展示会、灯りのイベントなどを開催することで、多くの住民が広場に集い、子どもから高齢者まで地域の交流が活発に行われるよう工夫しました。

拠点施設



そね.com

《主な整備内容：改修》

- 市教育センター内プール跡地に、軽量鉄骨造平屋建て、約 96 m²を新築
- 備品の整備

連絡先

曾根町地域交流推進委員会
TEL /FAX 079-447-1708

地域づくりの 課題と目標

志染地区は農村地域で、若者の就職する企業が限られているため、地元への定着が少なくなっています。また、子どもの数も年々減少して、高齢化率が高くなっています。そうしたなか、さらに、生活様式の多様化などにより、地域行事への住民参加が少なくなるなど、地域への関心が薄くなっています。

志染ふれあい委員会は、薄れつつある「地域における人と人とのつながり」を強め、地域の自主的、主体的な取り組みを通じて住民が相互に一層励ましあい、且つ助け合うことができる交流と連帯のまちづくりを進めています。

地域見守り地蔵の制作



【地域見守り地蔵の制作】

志染地区には、古くから千体地蔵と呼ばれる地蔵があります。

この地蔵は、子安地蔵で、子宝を求めて小地蔵一体を持ち帰り、子どもが授かるとそのお礼に新しい石地蔵を一体添えてお返しをする習わしがあります。

志染ふれあい委員会では、この千体地蔵にちなんで、地域を見守ってもらうとともに、「お地蔵様の周辺にはゴミを捨てないだろう」との思いから、地域の美化活動の一環としてお地蔵様の制作に取り組みました。

平成21年度は15体制作りし、地域の各所に設置。平成22年度も16体制作りし、地域の各所に設置する予定です。

歴史散策

志染地区は、古事記、日本書紀、播磨国風土記などにも登場する豊かな歴史を持った地区です。

地区内には、多くの名所、旧跡がありますが、地元でも知らない方が多いことから、志染ふれあい委員会では、「もっと自分の住んでいる地域のことを知ってもらおう」と昨年度から地域の歴史散策を始めました。

第3回となる今回は、窟屋（いわや）地区の金水（きんすい）やどっこいさん（古墳）を散策しました。小学1年生から70歳代の方まで70名が参加し、世代間の交流も促進されました。



【歴史散策】

これまでの 成果や 今後の予定

志染ふれあい委員会では、7つの部会を中心にまちづくりを進めてきました。納涼大会、敬老会、地区の歴史散策、三世代グラウンドゴルフ大会など地域の自主的、主体的な取り組みを通じて、住民間の交流が促進されました。

今後も、志染ふれあい委員会が中心となって、高齢者の生きがいづくり、子育て支援活動、生活安全推進活動、地域団体の組織づくり活動など交流と連帯のまちづくりに取り組んでいきます。

拠点施設



三木市志染公民館

《主な整備内容：改修》

- 会議室等の壁撤去による、多数の住民が集える交流スペースの設置
- 研修室及び倉庫の設置
- 備品の整備（テーブル、椅子、書架など）

連絡先

志染ふれあい委員会

TEL 0794-87-3814 / FAX 0794-87-1834

地域づくりの
課題と目標

富田地区の課題として、①事業の継続と充実のための資金の確保、②地区内の各種団体（区長会・老人会・PTA等）との連携と調和、③リーダー的後継者の育成と役員の労力（ボランティア）の軽減、④各事業とも多くの参加者がありますが、まだまだ、まちづくりの取組事業を知らない住民が多いことから、広報活動の充実と参加促進が必要であると考えています。

こうしたことから、地域の目標を、活動の核である「味噌作り」を、近い将来コミュニティビジネスとして成り立つようにすることや、各種事業への参加人数を年間延べ2,000人以上にすることにしています。

味噌作り



【味噌作り】

地域の特色ある農産物の開発を核に、住民間・世代間の交流活動の拠点として、広場用地や倉庫を確保、改造し、メイン事業の一つとして味噌作りを行っています。

倉庫の改造や作業場の整備のほか、必要な什器、備品等もほとんど地元民の技術（大工・電気・鉄工等）を結集して製作しました。

原材料の青大豆の種まきから収穫まですべて手作業で行い、初年度出来上がった味噌を全家庭に配布。美味しい、安全と高い評価を得ており、年々参加者も増加し、生産量も増大（H22年度生産量約1,650kg）しています。

夏祭り

区長会、老人会、PTA、防犯協会、交通安全協会その他多くの団体・同好会の協力を得ての一大イベント。子供映画会、文化展、多種多様な出店、農産物の即売、よさこい踊り、子供太鼓等、誰もが楽しめる催しとして定着しています。



【夏祭り】

三世代交流グランドゴルフ大会（はつらつ委員会との共催）

グラウンドゴルフクラブの協力で毎年秋に開催。年々参加者も多くなり、根付きつつあります。今年は、約200名の参加者が楽しいひとときを過ごしました。

これまでの
成果や
今後の予定

味噌作りは、年々参加者も増え生産量も初年度の850kgから3年で1,650kgと倍増しました。将来的には、一般販売を目標に施設を充実させ、コミュニティビジネスとして成り立てばと考えています。

各事業とも年々参加者が増えており、さらなる参加者の拡大をめざします。〔H22年度延べ参加人数約1,650名（地域人口約3,000名）〕

今後、学校（小学校）教育との連携や小学生を対象とした事業の実施を進めます。

拠点施設



多目的倉庫、交流広場

《主な整備内容：改修》

- 倉庫を多目的利用施設として改修
- 駐車場兼交流広場の拡張
- 備品の整備（パソコン、ガスコンロ、机、椅子等）

連絡先

富田まちづくり推進協議会
TEL / FAX 0790-42-1655

地域づくりの
課題と目標

高齢化、核家族化が進むなか、世代間交流を図る事業として、22年度から、新しくスポーツフェスティバルを加え、従来の「芳田ふれあいまつり」と合わせて実施しました。その成果を踏まえ、参加者をもっと増やし、若者たちが定住したいと思える地域づくりをめざしたいと考えています。

今後、地域住民が自主的に参加したいと思える事業を計画するとともに、現在計画中の野間川河川公園を情報発信収集基地とし、直売所を開設したいと考えています。



【ガーデンボランティア】

芳田ふれあいまつり

地区住民の交流の輪を広げ、住民自らが明るく心のふれあう芳田の里づくりをめざして、「芳田ふれあいまつり」を開催しています。子供、親、祖父母が交流するコーナーやものづくりコーナー、フリーマーケットの他、グラウンドゴルフ大会、バレーボール大会などに多くの参加者があり、「住んでよかったといえる芳田の里づくり」に取り組んでいます。

ガーデンボランティア「夢うさぎ」

「芳田の里花いっぱい」をめざして、地区全戸630戸への花苗の配布のほか、県道歩道脇の花壇設置と季節ごとの花の植え替えをしています。

また、公共施設への花苗の提供や「芳田の里花いっぱい運動」のカレンダーを作成して、全戸配布するなど、環境美化の推進に取り組んでいます。

芳田ふれあい直売所

平成20年の開設以来、地産地消をめざし、毎週水、金、土曜日に、地域の生産者による採れ採れ無農薬野菜や花、果物、お菓子、手芸品等の販売を行っています。

地域住民のふれあいの場として、年ごとに入場者数も増加しており、先進地視察など研修を重ねて、さらに充実した直売所をめざします。



【芳田ふれあい直売所】

これまでの
成果や
今後の予定

平成18年結成の「芳田ふれあい会議」は19の団体・グループが参加し、4部会（プロジェクト部会、地域活性化部会、安全安心部会、イベント部会）71名の委員で構成されています。

まちづくりスローガンの「好きです自然」「もっと好きです思いやり」「生き活きとみんなで創る緑の里法太(ほうた)」のもと、数々の事業（年間20件）を行い、参加人数も年毎に増加しています。今後、さらに工夫をこらすとともに、リーダーの高齢化に伴い若い人材の活用を図り、新たな発想による取り組みを行っていきたい。

拠点施設



市立芳田の里ふれあい館

《主な整備内容：改修》

- ふれあい広場のサロンの整備
- 収納庫整備
- 活動に要する備品類の充実整備（ビデオカメラ、机、いす、ホワイトボード等）

連絡先

芳田ふれあい会議
TEL / FAX 0795-27-0658

地域づくりの 課題と目標

今なお多くの田園地帯を有する香呂・香呂南地区は、旧香寺町時代、昭和40年頃からベッドタウンとして新興住宅地の開発が盛んにされた地域であり、人口の半分は他地域からの転入者です。時代の流れとともに高齢化が進むなか、多世代・新旧住民が交流できる場所や機会が重要であると考えました。

平成20年11月に完成した地域交流会館を中心に、事業を本格的に始動するに当たり、香呂及び香呂南地区の全自治会長をメンバーとして推進委員会組織を結成し、ふれあい交流喫茶、スポーツ大会、地域資源の発掘、継承伝承などを行い、住民間・世代間の交流を進める事業を進めることとしました。

ふれあい喫茶

ふれあい喫茶は、毎月第3木曜日、午前9時から11時55分までオープンしています。

毎月、130～150人（多い時は180人）の来客があるほどの大盛況で、スタッフ一同うれしい悲鳴をあげています。

ふれあい喫茶前日の準備はボランティア（約25人）が3交代制で行い、当日はボランティア全員がスタッフとして参加しています。



【ふれあい喫茶】

パソコン教室など

パソコン教室は、大変好評で申し込み多数のため、A・B・C・Dの4班に分けて教室を開催しています。身体障害者の方に講師を依頼し、福祉活動の一環も担っています。

パソコン教室のほか、交流会館では、趣味クラブ活動も盛んで使用頻度も高く、今年度の交流会館の延べ利用人数は、4,000人を超える勢いです。

その他、地元農産物を活用したふれあい朝市、グラウンドゴルフ大会、ウォークラリーを行い、多世代の住民間の交流を図りました。



【パソコン教室】

これまでの 成果や 今後の予定

交流広場活動は、広報や口コミ効果で、香呂及び香呂南地区の人々はもちろん他地域の方にも広く浸透し、多数の参加を得られるようになりました。

この活動を機に、地域の交流の輪が広がり、住民同士のふれあいが非常にうまくはかれていると思います。

今後は、現在交流会館を利用している各種団体を推進委員会のメンバーに加え、さらに充実した組織づくりを目指します。また、高齢者間のみならず、世代間・男女間の交流をすすめ、安全・安心の町の基礎を築いていきたいと思っています。

拠点施設



香呂・香呂南地区地域交流会館

《主な整備内容：新築》

- 地域所有地に交流スペースや調理場を備えた施設を新築
（鉄骨造平屋建て、約250㎡）
- 備品の整備（机、椅子、パソコン、コピー機 等）

連絡先

香呂及び香呂南地区地域推進委員会（犬飼公民会館内）
TEL / FAX 079-232-1611

地域づくりの
課題と目標

山之内地区は、姫路市夢前町の最北端に位置し、世帯数 310 戸、人口 770 名で高齢化率は 42.2%と、高齢化・過疎化が進んでいる山麓地域です。この地域を何とか盛り上げようと世代間・住民間交流の場としてふれあい喫茶を中心に、ふれあいスポーツ大会、山と海の交流、山之内文化祭&農業祭、かじかまつりの各事業を推進しています。これらの事業を通じて、コミュニティづくりが地域住民に広がり深まって来たと思います。今後は、一人でも多くの山之内出身者が、ふるさとに帰省し活動に参加してくれること、また、食育、特産品づくり等に取り組みたいと考えています。

かじかまつり



【かじかまつり】

山之内周辺では 6 月頃、夜になると川の中できれいな声で鳴く「かじかがエル」が生息しています。近年、希少種に指定されている魚「かじか」と同じ名称であることから、2つをかけ合わせ、山之内の自然を見直し、環境保全に取り組む事を目的とした「かじかまつり」を開催しています。

今年は、220名の参加者が、鮎とうなぎの放流、鮎狩り、スイカ割りなどを楽しみ、鮎の塩焼きや鹿肉バーベキュー、女性ボランティア手作りの山菜弁当に舌鼓を打ちながら、山之内在住者と帰省して参加した地元出身者が昔話に花を咲かせるなど、大いに賑わいました。また、最後には、全員で川の清掃活動を行いました。

文化祭&農業祭

地域住民が日頃の生涯学習の成果や、各家庭で作った野菜・果物等を発表する場として、「文化祭&農業祭」を開催しています。舞台発表・各種作品の展示のほか、抽選会、花と苗木のバザー、「かぶら焼き」や郷土の食材を使った弁当づくりなどを行い、平成 22 年は、前年をやや下回ったものの 350 名の参加者がありました。山之内では、昔、食卓の横にコンロを置き半日程度塩漬にしたかぶらや漬物を焼いて食べる風習がありましたが、今は途絶えつつあります。

今回のイベントでこの「かぶら焼き」を再現したところ、ほんのりとした甘みとやわらかさが大好評でした。これをきっかけに、今後は山之内の食文化を掘り下げようと考えています。



【文化祭&農業祭】

これまでの
成果や
今後の予定

今後も、高齢化・過疎化が進み、独居老人が増えると思います。そのような状況では、自分たちの地域は自分たちで守るという気概が必要であり、コミュニティづくりは欠かせないものです。

山之内では、県民交流広場事業を通じて、地域全体に一体感が生まれ、コミュニティがより一層広がり、活性化してきたと思います。山之内小学校が廃校した今、地域全体のコミュニティづくりは、県民交流広場事業のほかありません。今後 2 年余りの間により精進し、一人でも多くの山之内出身者が参加してもらうこと、また、山之内の山菜等を利用した、食・特産物づくりに取り組んでいきたいと考えています。

拠点施設



コミュニティハウス雪彦

《主な整備内容：改修》

- コミュニティハウスの和室集会室のフローリング化
- 調理室の拡充と事務室の設置
- 備品の整備（机、椅子、パソコン、テントなど）

連絡先

山之内地区地域交流推進委員会
TEL 079-338-0581（会長宅）

地域づくりの
課題と目標

福崎小学校区の児童数は昭和56年をピークに減少の一途で、平成21年にはピーク時の45%と少子化が進んでいます。また、校区内の各自治会は、それぞれ独自の取組を行っていますが、現状の枠を越えて、校区全体での活動の場がなく、世代間・地域間の交流活動が困難な状況がありました。

校区には父子・母子家庭も多く、社会的な保護の必要な児童がみられます。同時に学習障害や発達障害の児童も増えつつあります。こうした現状を見ると、地域の教育力を高めることが急務と考えました。そこで、児童数減少による小学校の余裕教室を利用した拠点をつくることで、子どもたちとの関わりを深め、世代間の交流を活発にして、地域の活性化を図り、次代を担う子どもたちを校区住民の力を結集して育てることを目標としました。



【スクールヘルパー】

校内巡回と下校の見守り活動

福崎小学校の児童が、安全・安心して学習に取り組むことのできる環境を確保するため、週に4回、校内巡回と下校時の見守り活動を行っています。児童も、はじめのうちは、近所のおじさん・おばさんに声をかけられることに戸惑いもあったようですが、あいさつの声も少しずつ大きくなり、「勉強、がんばっていたね」とほめられると、笑顔を返す児童も見られるようになってきました。

校内巡回に参加された人の中には、「30年ぶりに小学校へ来て、先生と話ができてとても良かった」と喜ばれる方もいます。

パソコン教室

最初、3人のグループでスタートしたパソコン教室ですが、全くの初心者向けの講座内容で、今までパソコンに触れたことのない人でも気兼ねなく参加できることが広く知られるようになり、徐々に会員数が増えています。「今年の年賀状は、自らパソコンで作ります」と宣言される会員もいました。



【パソコン教室】



【ウォークラリー】

これまでの
成果や
今後の予定

福崎小学校の学校行事「ふるさと発見ウォークラリー」を実施したところ、多くの校区住民が、交通の安全（パトロール）・地域学習のゲストティーチャーとして参加してくださり、地域住民の力が集結した行事を行うことができました。

活動を通して、地域の高齢者が、子どもとの関わりの中で、知識や経験を活かすことで、生きがいにもつながり、「地域の子どもは地域で育てる」という意識が地域に根づきつつあります。

今後も、校区の人々のアイデアを生かし、住民みんなが参加できる活動を展開していきたいと考えています。

拠点施設



福崎小学校

《主な整備内容：改修》

- 交流広場及スクールヘルパー室の整備
- 学校教育施設と交流広場の区分工事（電動シャッターの整備）
- 備品の購入（机、椅子、テーブルなど）

連絡先

福崎小学校区地域教育推進委員会
TEL 0790-22-3412（会長宅）

地域づくりの 課題と目標

相生地区の高齢化率は40%を超えています。このような状況で高齢者の活性化と共助は重要な課題です。「コミュニティの場」を作り、地域情報交換、引きこもり防止などに有効活用しています。

県民交流広場「あいあいひろば」での日々の交流に加えて、各種イベントの実施による世代間の交流、講演と実習による認知症予防などの高齢者啓発の場としても活用していきます。



【相生懐古いろはカルタ大会他】

あいあいひろば おお

「いつでも、誰でも」をモットーに、「あいあいひろば おお」を金曜日から火曜日まで週5日間、10時から17時まで開場し、年間約5000人の来訪者を受け入れています。

地域の人に興味を持って来場してもらえるよう、地元の人が制作した絵画や工芸作品を展示するまちかどギャラリーや、昔の写真・祭りの写真などを閲覧できるようにしており、これが話題になって話が盛り上がるような取組をしています。

その他、広場では、布ぞうり教室、折り紙教室、相生ふれあい寄席（大人向け）、七夕祭り、相生懐古いろはかるた大会（子供向け）など多様な事業を開催して交流を図っています。

あいあいひろば 相生館

高齢化率の高い当地区（40%）において、閉じこもりやすい高齢者の生きがいづくりと交流の機会づくりを目的として、地域の中心に位置し、毎日訪れる場所である「コープ店舗の空きスペース」に広場を整備し、気軽におしゃべりできる場を提供しています。

近くにある看護学校の学生による健康相談会を開催し、若者は高齢者と話す機会が、お年寄りには若い人と交流できる機会ができ、双方から喜ばれており、世代交流の拠点ともなっています。



【お年寄りとの交流】

これまでの 成果や 今後の予定

当初目指した「コミュニティの場」としての役割を果たしており、地域に広く認知されて直接運営に関わっていない方々からも有形・無形の支援をいただいています。

補助金に依存しない自主運営を目指して平成22年9月にNPO法人を設立しました。今後は、NPO会費、コミュニティビジネスの収益を柱とする運営を図っていきます。

拠点施設



あいあいひろば相生館

《主な整備内容：改修》

- パーティションの設置、パネル展示用掲示板、移動座敷の設置
- 1F、2F部屋の改装、トイレ、下水、電気設備工事
- 厨房調理器具の新設 ○備品の整備（パソコン、机・椅子、収納庫等）

連絡先

NPO法人「あいあいひろば」

TEL 090-2118-1160/ FAX 0791-22-0128

地域づくりの
課題と目標

当地域は、旧新宮町の中心部にあり、公共施設、金融機関、医療施設等が集中し旧新宮町の他の地域よりも恵まれた地域でしたが、合併後は地域行事も少なくなり、地域住民の交流が希薄化してきました。活力ある地域を取り戻すには、地域住民が一体となってまちづくりに取り組む必要があります。

そのため、地域の目標として、①郷土の歴史・文化の伝承を通じて、「郷土愛」を誇れる活動の強化、②豊かな自然資源を活用した地域づくり、③子どもたちの健全育成と高齢者の孤独感解消に努め、家庭と地域との「絆」を深める活動の強化、④地域の問題を共に考える世代間交流活動の強化を掲げています。



【ふれあい喫茶】

「ふれあい喫茶」の実施

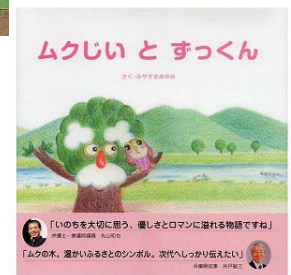
旧新宮町役場跡を改修した「こころん広場」で、各自治会から約100名のボランティアの皆さんに協力を頂き、月20日間、午前中オープンしています。

「ムクの木」をキーワードにしたまちづくりの推進

無いもの探しより、あるものをまちづくりに利用しようと、当地域のシンボルで新宮八幡神社の境内にある樹齢400年のムクの木をキーワードに活動しています。

治療のために伐採した枝を使ってベンチを製作することを考え、県立龍野北高校に相談したところ、快く協力をしてくれたり、地域の人たちからムクの実を小学生の頃は食べていたことを聞き、ムクの実を使ったお菓子づくりをしたり、草木染教室の皆さんにムクの実を使った染物を作ってもらいました。

また、フクロウの仲間のアオバズクが、毎年、子育てのために東南アジア方面から飛来し、ムクの実に巣を作ることから、ムクの実とアオバズクを題材にした絵本「ムクじいとずっくん」を発刊しましたが、絵本を通じて、他市町の読み聞かせ会の人との交流や、地域の幼稚園児、小学生たちとの交流が始まっています。



【「ムクの木」の絵本】

これまでの
成果や
今後の予定

ふれあい喫茶には多くの高齢者が集まり、交流の場になっています。

また、ムクの実を活用した地域のアピールが浸透してきて、新宮町だけでなく、他の地域にもムクの実に関心を持つ方が増えました。

今後もこうした活動を継続して行くためには、活動資金と地域の人たちの参画と協働が不可欠だと思います。そのために、私たちはふれあい喫茶の売上金をプールしたり、各自治会にお願いして世帯数に応じた拠出金を提供いただいたりし、活動資金の確保をしていく予定です。

加えて、今まで連自治会や各種団体等が行っている様々な地域活動を一度集約し、新宮中地区まちづくり推進委員会が中心となって地域活動を行うことがとても大切だと考えます。それは、自治会や各種団体の役員だけでなく、地域の中で積極的に活動できる人材に推進委員会の活動に参加してもらえるからです。そうすることで、今までの自治会や老人会が活動の中心であった地域づくりから脱却し、多世代の人たちが積極的に参加することができる「まちづくり」が可能になり、地域の活性化が図れると考えられます。

私たち、新宮中地区まちづくり推進委員会は、地域社会の現状を考え、誰でも参加することのできる、活力ある地域づくりを目指して活動していきます。

拠点施設



こころん広場

《主な整備内容：改修》

○宿直室を活動スペースとして改修

○活動に要する備品類の充実整備

（パソコン、デジタルカメラ、プロジェクター、FAX等）

連絡先

新宮中地区まちづくり推進委員会

TEL / FAX 0791-75-1264

地域づくりの
課題と目標

小宅地区は、たつの市内で最も人口が多く、また、市役所等の官公庁、JR本竜野駅、商業施設などが集積し、市の中枢機能を担っています。このうち、たつの市の玄関口として「お洒落でシンプルな龍野らしさ」を表現した景観形成・土地利用の活性化に、地域住民が「参画と協働」を基調に「駅にしまちづくり委員会」と共催で取り組んでいます。また、自治会を中心に各種団体並びに地域住民が「住んでよかったまち」を目指した交流活動の拠点となっています。



【手づくり工房・喫茶コーナー】

「赤とんぼプラザ」＜手づくり工房・喫茶コーナー＞運営

旧郵便局に置いていた拠点を平成22年3月にJR本竜野駅舎内に移し、毎週火曜日を定休日として、9時から17時まで営業を行っています。手づくり工房は、木工・竹細工製品やバッグ等革製品など地域の材料で小物製品の販売、喫茶コーナーは、モーニングや軽食を提供しています。

開設して1年を迎えますが、お陰様でたつの市を訪問される皆様や地域の方々に利用していただき喜んでます。

「七夕まつり」「風鈴つり」「コミセンまつり」などの実施

三世代交流として「七夕まつり」「風鈴つり」「コミセンまつり」等を幼児から高齢者までの世代間交流に加え、龍野に来られた方のおもてなしと地域の元気や賑わいづくりを図るため開催しています。

「七夕まつり」は参加者が思い思いの願い事を書いた短冊や千代紙の飾りを22本の笹に付けるとともに、子ども向けのクイズ大会や、地域の大人や駅利用者も混じってそうめん流しを行いました。

「風鈴つり」は本竜野駅から龍野橋・朝日橋まで家の軒先に赤とんぼの風鈴100個を夏期間飾り、涼やかな音色が道行く人の耳に心地よく響き、観光客の道しるべになりました。

「コミセンまつり」は12月26日コミセン南側で、手馴れた人、初めての人、男の子、女の子もぺったん！ぺったん！あんこ・きな粉・大根おろしをまぶして、本竜野駅ボランティア清掃グループや来場者にふるまわれました。



【風鈴つり】



【七夕まつり】

これまでの
成果や
今後の予定

駅構内に拠点を移してからまだ1年弱です。これまで行っていた活動の継続に、新たに「赤とんぼプラザ」の運営が加わり、忙しさが増えています。しかし、その利用者の方はもちろん、ふれあい交流事業（ミステリーツアー・コミセン祭りなど）参加者にも好評をいただいているため、事業の企画や運営に携わるスタッフもやりがいを感じています。

今後は、それらの活動をさらに充実させていくとともに、「参画と協働」を基本に、世代を越え多くの皆様に集まっていただき、わいわいがやがやと楽しい交流ができるよう取り組んでいきたい。企画運営の若返りを図る必要があります。

拠点施設



小宅地区コミュニティセンター

《主な整備内容：改修》

- 床面、壁張替え
- 活動に要する備品類の充実整備（パソコン、コピー機、プロジェクタ、食器棚等）

連絡先

小宅地域県民交流広場推進委員会「やさしさを育むまち小宅」
TEL / FAX 0791-62-0405

地域づくりの 課題と目標

伊佐地区は、田畑が多く緑豊かな農村地域ですが、新興住宅の造成や県営住宅等の建設により、人口は横ばいで、高齢化率も 24.5%と市全体（30.9%）に比較すると低い地域です。今まで各世代のニーズに対応した各種教室、講座を開設してきましたが、高齢化の進展に伴い、イベントの参加者が減少傾向にあり、その歯止めにも苦慮していました。

そのため、地域住民から切望されていた地域の会及び食生活の改善を目的に、①「食の安全・食の改善」をテーマに多世代・住民間の交流を通じた健康増進とコミュニティづくり、②地域住民の健康増進のための定期的な料理教室、③多世代・住民間のふれあい強化のための各種のイベントを実施することにしました。

料理教室

「食の安全・食の改善」のための各種料理教室（年6回）を開催しています。具体的には、独居の男性高齢者を対象とした教室（年2回）や地産食材を使用した教室（ex. こんにゃく作り）のほか、季節の食材を使用した季節料理教室（お祭り・遠足・運動会用等）などを開催し、新たなふれあいの輪が広がっています。



【男性の料理教室】



【新春 お楽しみ会】

子育て支援

多世代、住民間のふれあい交流事業として、地域児童との交流の場である「土曜ふれあい交流会」（年4～5回）を開催しています。伊佐小学校低学年児童を対象に柏餅作りや新春お楽しみ会など季節に応じた内容で実施しています。

特に22年度は、地域の子育て支援と、高齢者の生きがいつくりのため、「孫育て事業」を実施（10月～計7回）しました。竹とんぼ・お手玉等の伝承遊びの講座や育児・食育等の講座の開催により、多世代の交流を深めることができました。



【孫育て事業】

これまでの 成果や 今後の予定

県民交流広場事業による調理室の整備により、住民のニーズが高い「地域の食と食生活の改善」に関する活動がスムーズに実施できるようになりました。各種事業の開催は、概ね地域住民に歓迎され、評価されています。県民交流広場事業は平成23年度で終了しますが、地域自治協議会としての活動と並行して、住民のニーズを十分に反映しながら取組内容を工夫し、今後とも活動は継続していきたいと考えています。

拠点施設



伊佐ふれあい倶楽部

《主な整備内容：改修》

- 多世代・住民間交流のため、調理室を約 40 m²増築
- 備品の整備（机、椅子、調理器具等）

連絡先

伊佐ふれあい倶楽部運営委員会
TEL 079-662-9288

地域づくりの
課題と目標

地域内の小学校が平成16年に閉校になり、ますます過疎化が進む中、地域に活力を生み出すことができないかを地区民で検討した結果、廃校を利用して交流施設と農産加工施設を設置するとともに、住民一体の農産加工組合を設立して、地域活性化の活動を進めています。今後も地域づくりに多くの皆さんが関心を持って頂くように工夫する事が大切です。リーダーや委員の皆さんが頑張っているにもかかわらず継続性に乏しいので、地区民に関心を持っていただき、リーダー養成をしなくてはなりません。こころ豊かな地域づくりを推進することです。

農産物等を使用した特産品の生産



【特産品の生産】

廃校になった小学校を農産加工施設、交流施設として整備しました。地域で採れる山菜、農産物等を使用して特産品を生産するなど、コミュニティビジネスに取り組んでいます。

特に古来伝わる伝統の味を生かした栃餅の生産を主力にして、葉ワサビの漬け物やふき・山椒の実を使った佃煮などを、イベントや道の駅、商店の他、阪神間の都市住民に販売しています。また、常に新商品の開発にも努めています。

正月用の餅は、受注生産で地元を始め京阪神、東京方面にも宅配宅送をしています。

異世代交流

過疎化の進む当地域に交流人を入れて地域活性化を進めようと草木染めや餅つき体験などの事業を多く進めています。

当施設で統合小学校の子供の食育を兼ねた収穫体験や調理体験などを行い異世代交流を行っています。

今年は東京都杉並区の子供も受け入れて農業、林業体験を行いました。夕食会のそうめん流しで都市と農村の子供達の交流会も盛大に行いました。



【異世代交流】

これまでの
成果や
今後の予定

廃校となった小学校の加工所や地区公民館に集まって、みんなで雑談や生産活動、文化活動を通して一段と生きがいがづくりにつながっています。

農産物を加工する過程で、地域の高齢者が山野から採取してきたトチの実や葉ワサビなどの資材料を買い取ることで大変喜ばれています。

交流人口を増やす事業を今後も進めることにより、子供がいなくなり活動が低下している地域の活性化を図り、住民の生きがいがづくりを継続運営に努めていくことにしています。

拠点施設



町立久斗山コミュニティセンター

《主な整備内容：改修》

- 調理室の改修
- 教室を交流室へ改修
- 備品の整備（厨房機器、机・椅子等）

連絡先

久斗山農産加工組合
TEL / FAX 0796-85-0030

地域づくりの
課題と目標

奥銀谷地域は高齢化率 42%（平成 21 年度末）で、朝来市の中で最も高齢化が進行した地域です。面積が 63km²と広いうえ、奥地の集落は中心部と 25km 離れており、地理的に一体的なコミュニティの形成が図りにくい条件にあります。

さらに、地域住民のシンボルであり、心の拠り所だった奥銀谷小学校・幼稚園が平成 21 年 3 月に閉校・閉園し、学校で繋がっていたコミュニティ意識がなくなってきつつあることから、「地域住民の連帯と協働で、笑いながら暮らせる地域づくり」を目標に“どないかせなあかん！なにくそ限界！の精神で、地域の元気と安心づくり”に取り組んでいます。

ふれあい喫茶「だんらん」の運営



【だんらん】

閉園となった幼稚園園舎を、奥銀谷地域自治協議会の拠点施設「かがせの郷」として改修し、あわせて地域住民の交流拠点・井戸端会議の場として、ふれあい喫茶「だんらん」をオープンしました。

喫茶には、閉校した小学校から図書を譲り受け、地域の図書館を併設することにより、さまざまな世代が集いやすい空間となっています。ボランティアによる運営で、はじめはコーヒーのみの営業でしたが、現在はうどんを提供できるようになり、少しずつメニューも拡大。また囲碁教室など生涯学習活動も行われるようになり、毎週水・土のみの運営ながら、日平均 20 人の利用者で賑わっています。

最近では喫茶営業のほか、地元農業生産者と連携した農作物の販売（朝市）も行っており、活動の幅も広がってきています。

カルチャー教室「歴史を語る」の開催

奥銀谷地域は生野銀山の歴史の核となる資源を多く有していることから地元の有識者が連携し、歴史資源調査と地元住民を対象とした歴史講座を開催。普段あまりにも身近なため、見落としがちな奥銀谷地域の歴史資源や、日の目を見ていない史実などを地域住民の目線から掘り起こし、同じ住民に伝承することで、奥銀谷地域の歴史資源を未来につなぐとともに、地域アイデンティティの醸成を目指しています。



【歴史を語る】

これまでの
成果や
今後の予定

○ふれあい喫茶「だんらん」

成果 奥銀谷地域には飲食店などが無い中で、地域住民のよりどころの場として機能しています。

予定 引き続き地域の交流拠点として活動していくとともに、県民交流広場事業で購入した車両を活用し、一人暮らしのお年寄り等への買い物サービスや給食サービスなどにも取り組む予定です。

○カルチャー教室「歴史を語る」

成果 歴史教室を通じ、地域の歴史資源への関心が深まり、住民有志による資源看板整備や地域のお宝マップづくりなど、他の取り組みにも繋がっています。

予定 今後もこの取り組みを通じて多世代にわたる歴史文化の共有化を図るとともに、広報誌への掲載や定期刊行誌発行などを通じて、調査内容の文書化を進めます。また、この取り組みをきっかけとして生まれたお宝マップを活用し、観光振興策などにも連携していく予定です。

拠点施設



旧朝来市立奥銀谷幼児センター

《主な整備内容：改修》

- ふれあい喫茶のため、幼児教室を厨房・喫茶室・図書室に改修
- 遊戯室を多目的ホールとして改修
- 備品（車両、会議テーブル、椅子、冷蔵庫、液晶テレビなど）

連絡先

奥銀谷地域自治協議会
TEL / FAX 079-679-4131

地域づくりの 課題と目標

過疎化と高齢化が進み、自治会単位の婦人会組織が解散する中、同好会、ボランティア活動への参加など旧来の地域のコミュニティの組織に変化が現れてきています。

また、地区内でも比較的 JR の駅や高速道路 IC に近い場所では新住民の流入により「都市型」の集落が形成されるなかで、自治組織の共同作業に対する住民意識も二極化し、さらに、核家族の増加にともない地域の子育て環境の整備が課題となっています。

こういう情勢を踏まえ、世代間・住民間の交流を通して、安全・安心で美しいコミュニティづくりを活動の目標として設定し、母親が子育てしながら安心して働ける環境づくり、世代間や都市との交流による地域コミュニティの活性化などを重点に取り組んでいます。



【学童保育（囲碁ボール）】

放課後児童クラブ

「地区の子ども達は、地区の住民によって守る」との考えのもと、丹波地方で初めてとなる民設民営型の放課後児童クラブ（学童保育）「ピープル」をオープンさせました。

さらに、運営にあたっては、放課後児童クラブをNPO法人化して、地域の高齢者にも指導員として関わってもらうしくみとするなど、世代間の交流とともに母親が子育てをしながら安心して働ける環境整備により、地域での子育て支援の取組を進めています。

都市との交流

交流による地域のコミュニティの活性化を図るため、地域内の食育グループや営農グループが中心となって、大学などの外部組織と連携した環境保全や、特産物を利用した料理教室の開催、しめ縄づくり、伝統のおもちゃづくりなど、交流による新しい取組も行っています。

都市部（神戸市）の県民交流広場との交流を通じた地域連携を進め、交流市での農産物販売や農業体験交流事業の実施など様々な取り組みを始めています。



【交流事業（稲刈り）】

これまでの 成果や 今後の予定

交流拠点を活用した、放課後児童クラブ（学童保育）「ピープル」の開設により放課後の子供の居場所が確保でき、子育て家庭の負担軽減につながっています。

HPの開設により県民交流広場の取り組みをPRしているが、世代間の交流に一層力を入れて取り組むとともに、引き続き、「ピープル」を経営します。

また、都市部の県民交流広場とは、対等な立場でのお互いにメリットのある継続した交流を進めていく予定です。

拠点施設



コミュニティセンター城南会館

《主な整備内容：増築》

- 学童保育や活動スペース（多目的室）確保のため、約 44 m²の増築及び既存部分の改修
- 備品の整備（コピー機、プロジェクターなど）

連絡先

城南地区まちづくり協議会
TEL / FAX 079-594-0960

地域づくりの
課題と目標

高齢化率30%を超え、人口減少も顕著になってきています。
 一方、豊かな自然景観と地域の伝統が継承されており、また、恐竜化石が発見されるなど明るい話題もあります。
 このような状況のなか、「安全・安心で多様な人が関わる・コミュニティ豊かな地域づくり」を目標に、拠点施設を活用した交流サロンの開設や文化の育みによるまちづくりを推進するほか、恐竜化石発見を契機とした「かみくげ恐竜の里づくり」を進めています。

化石発掘体験事業



【化石発掘体験】

恐竜化石を地域資源として活用するため、インターネットのブログで等身大の木製の恐竜モニュメントの記事など地元情報を紹介し、恐竜化石発見現場の状況を全国に向け情報発信しPRするほか、毎年8月7日を恐竜化石発見記念日としてイベントを実施しています。4周年となる平成22年は、記念事業として300人を超える人たちによる化石発掘体験事業を実施しました。

発掘現場に「元気村かみくげ」を建設し、恐竜グッズの販売、野菜等の販売、恐竜焼きの販売などを行うほか、絵本の作成など新たな取組を行っています。

桜の名所をめぐる歩こう会

交流拠点を起点として地域の桜の名所をめぐる歩こう会の実施や、地区内の同好会による文化活動の発表の機会づくりなどを継続して実施し、地域のコミュニケーションの維持・醸成に努めています。

里山ふれあい森づくり事業として、上久下小学校同窓会にて子どもたちの自然体験教室を開催するなど、青少年の健全育成に取り組むほか、4月には、「さくら祭り」を開催し、桜の名所を歩こう会、抽選会、もちまきなどにより、住民の交流をはかるとともに、11月には文化祭を開催し、同好会の文化活動の発表、創作作品の展示などにより、多世代間交流に努めています。



【文化祭】

これまでの
成果や
今後の予定

HP等を活用した地域情報の発信と並行し、県や市のコミュニティ事業を活用して恐竜モニュメントや発見現場の見える展望デッキの設置など発見現場をPRするための施設等の整備が進みました。

また、物販・発掘体験施設「元気村かみくげ」を開設し、懸案となっていた農産物等の販売の拠点も整備されました。「企業組合」の設立に向けた動きがでてきています。今後は、整備された施設を一層有効に活用し、地域が一体となった「かみくげ恐竜の里づくり」を進めていきます。

拠点施設



上久下地域づくりセンター

《主な整備内容：改修》

- 既存倉庫棟を会議室等に改修
- 備品の整備（輪転機、プロジェクターなど）

連絡先

上久下地域自治協議会

TEL 0795-78-0001 / FAX 0795-78-0819

地域づくりの
課題と目標

住民の高齢化が進んでいることに加え、公共の交通機関が発達していないこともあり、地域外、特に都市部の人との交流や情報交換が希薄になっています。

新たなコミュニケーション、地域外との情報交換の手段として、パソコン・インターネットの活用など、地域情報の収集・加工・発信の拠点整備やHPを活用した地域情報の発信を行っています。



【パソコン教室】

パソコン教室、インターネットカフェの開設

生活情報技術の普及・推進（IT）活動の一環として、イベント「ITフェスタ」の開催、ITプロジェクト会議を開催する他、県民交流広場事業実施初年度から毎年継続して各集落を順番に回るパソコン教室の開設など、講座を行い知識の向上を図っています。

また、神楽の郷交流センター（3台）と愛菜館（2台）に誰でも自由に閲覧できるインターネットカフェを開設。

夏休み中の大学生等の利用が増加しています。

稲作オーナー

整備したIT機器を活用し、稲作オーナーやレンタル農園、収穫祭など情報をHPに掲載、多自然居住地域として地域の姿と取り組みなど地域の魅力を都市部に情報発信しています。

また、「企業の森づくり」事業の展開など地域で新たな取組を行い、地域コミュニティの活性化を図っています。



【稲作オーナー】

カイアポイモの試行栽培

健康維持に効用のあるカイアポイモの試行栽培を促進し、荒廃田の防止、生業環境づくりを目指しています。

これまでの
成果や
今後の予定

本事業によりIT機器を備え、地域情報の収集・加工・発信の拠点を整備し、地域情報の発信ができるようになりました。

事業実施主体となっていたNPO法人神楽の郷の組織を見直し一般財団法人神楽自治振興会として発足したことにより、地域を「神楽生活環境地域博物館（エコミュージアム）」としてとらえ、地域の資源を再評価し活性化する取り組みを、効率的、継続して展開していきます。

拠点施設



市立神楽の郷交流センター

《主な整備内容：改修》

○インターネットコーナーの設置

○活動に要する備品類の充実整備（パソコン、デジタルカメラ、プロジェクター等）

連絡先

一般財団法人神楽自治振興会

TEL / FAX 0795-87-5808

地域づくりの 課題と目標

活性化協議会の役員が固定化して、設立時から10年も継続している役員も数名います。年々役員が高齢化してきており、後継者をどのようにして組織に入れ、育てていくのが、大きな課題です。

また、活動も数年来継続して定着しているものの、地域住民にまで広がっていない活動も多くあります。

今年度の目標は、何よりも組織の若返りを図ることと、住民相互の交流が図れる活動に重点を置くことにしました。

菜の花エコプロジェクト

市の委託事業として菜の花エコプロジェクトを推進。10月下旬からの菜の花の種蒔きに始まり、追肥、菜の花祭りを地域の子もたちとともに盛大に開催するなど、すっかり恒例の取組となっています。

ただ、人手を確保することが年々むずかしくなってきたり、地域の小学校の状況も変わってきて、全校生で取り組んでいた種蒔きも1、2年生だけに規模を縮小せざるをえなくなってきました。

しかし、菜の花が咲き始める3月初旬、小学生や保育園児を招き、にぎやかに餅をつき、プロジェクトで精製した菜種油で揚げた食用菜の花の天ぷらを食べたりして、春の訪れと進級、卒業など成長を地域のみんなで喜び合う「菜の花まつり」を開催しています。継続した地域活性化の取組として大切にしていきたいと考えています。



【菜の花まつり】

ふれあい喫茶

地域住民の交流の場として週に1回の「ふれあい喫茶」を開いています。これまで、開店休業状態であった「ふれあい喫茶」をもっと住民が気軽に訪れることができる場にするための取組のひとつとして、生姜入り人参リンゴジュース、玄米よもぎ餅、ジュースかす活用かりんとうなど「健康メニュー」を提供してきました。また、季節が感じられる木の実や草花などを喫茶に持ち込むことにより、来店者相互の話題も豊かになり、交流が広がり深まっています。



【ふれあい喫茶】

これまでの 成果や 今後の予定

子どもが参加している地域の神社の春祭りでの檀尻唄の奉納や餅まき、菜の花まつりなど、もうすっかり定着して、当初の目標であるにぎやかな交流ができてきています。また、ふれあい喫茶も、長く継続してほしいという希望も強く、今後資金面という大きな課題を克服して、何らかの形で続けたいと考えています。

地道な継続した地域活性化の取組をどのように進めていけばいいのか、地域住民を対象としたアンケートにより意見を収集したり、講師を招聘しての地域づくり、街づくりの研修会を実施して、今後の方向を探っているところです。

拠点施設



市立老人福祉センター 高田屋荘

《主な整備内容：改修》

- 調理室、喫茶室の設置（二部屋の壁の撤去）
- 情報室の設置（事務室の改修）
- 備品の整備（パソコン、カラーコピー機等）

連絡先

都志活性化協議会

TEL / FAX 0799-33-0388

地域づくりの 課題と目標

人口減少による過疎化と少子高齢化が進行する中、伊加利地区住民が、活発に 1 人でも多く行事に参加し、地域の活性化が図れるよう「国際交流」をテーマに掲げ活動を行っています。

そのために、各種団体との連携で行事を計画し、参加するだけでなく、お互いの責任の下で参加者を募ることとしています。

「インターナショナル田舎の運動会」

この事業のメインである「インターナショナル田舎の運動会」は、前から「国際交流」をテーマに掲げ、留学生を招いて 2泊3日のホームステイや運動会での交流を通じて、子どもたちに外国の風習、文化を肌で感じてもらうことを目的として実施してきた活動を、県民交流広場事業において拡充し、更に地域の活性化を図ることとして、毎年開催しています。

昨年は、韓国、台湾、中国などアジア地域からの留学生 20 名を迎え、前夜祭、運動会を開催しました。当日は、留学生、地域住民約 80 名が参加し、地域交流、国際交流を図りました。今年は第 20 回となるので、早期から計画案を検討して、例年より中身の濃い行事にしたいと考えています。



【運動会の風景】

「ことばであそぼー」

県民交流広場事業から新しく開催した、「ことばであそぼー」の事業に 23 年度も取り組みたいと考えています。この事業は、単に活字で外国のことばを学ぶのではなく、遊びや行事を通じた会話の中から、生の外国のことばを学ぶことを目的としています。やっと定着したように思われるこの事業は、子供たちとの交流が楽しみです。回を重ねるに従い、私たちスタッフ及び留学生たちとの息がぴったり合ってきて、行事の内容にも深みが出てきました。



【餅つきを通じて外国のことばを学ぶ】

これまでの 成果や 今後の予定

わが町南あわじ市では、外国の人と接することが少ない土地柄です。でもこの事業を継続できたことで、最近では幼稚園児でも外国の人を見ても、私たち日本人と同じように接しています。肌の色、言葉の違いはあっても人間皆同じと実感し、育っていること、地域住民の交流が図れることが大きな成果だと考えています。最初、低学年で参加した小学児童も今年は 6 年生になります。この事業を心待ちにしている児童・地域住民のためにも、できれば今年も事業が継続できたらと思います。また、23 年度は大人の部も復活したいと考えています。

拠点施設



市立伊加利地区公民館

《主な整備内容：改修》

- 学校教室を交流施設へ改修
- 備品の整備（厨房機器、パソコン、ロッカー等）

連絡先

伊加利国際交流会
TEL 0799-39-0567

地域づくりの 課題と目標

当地域は少子・高齢化が進み、従来の住民が減少するなか、主体的に地域行事に取り組むリーダーが不足してきました。これにより、「下司大名行列」など伝統文化の継承が危ぶまれ、地域活動もマンネリ化してきていました。また、宅地分譲や県営住宅の整備により、新たに移り住んだ住民が増加しており、地域行事への参加が図れていない現状もありました。そこで、活動の拠点となる「塩田会館」を整備し、新たに茶道教室や料理教室・パソコン教室など、地域の歴史や文化・伝統を学ぶ生涯学習を行う場を設けました

さらに、納涼祭や体育祭・文化祭など、従来の地域行事を活性化させ、新旧住民間、三世代間のさらなる交流を図ることで、福祉の向上と健全な街づくりを目指して活動しています。



【下司大名行列】

「下司大名行列」

当地域には、江戸時代より続く伝統文化である「下司大名行列」がありますが、その伝承は口伝が主体であり、多忙化によりその継承が危ぶまれていました。また、道具類の管理も行き届かず、かなり傷んできており、その修理と管理の徹底も大きな課題でした。本事業を活用することで、馬子唄や所作などを映像化して継承を図り、道具類の修理と管理も行うこととしました。下司祭礼団を中心に大名行列保存会を組織し、地域の古老から馬子唄や所作の指導を受けました。昼の仕事を終えてからの練習でしたが、多くの地域住民が参加し、熱心に練習に取り組みました。そのおかげで、実演当日には素晴らしい大名行列を行うことができました。

素朴な馬子唄が響き、拍子木を先頭に、挟箱、弓、鉄砲、毛やりと続く行列は、優美な所作を披露しました。まさに、地域住民の待ち望んだ一瞬で、裏方を含め数十名の参加者は、それぞれの役割を演じ切ることができ、観覧者より大きな拍手を受けていました。この活動により、自分たちの住む郷土に誇りを持つとともに、さらなる愛着を持って今後の継承活動に取り組んでいく決意を固めることができました。

茶道教室

地区の保育園の子どもたちと、地区の老人クラブの方々を対象に、年数回の茶道教室を「塩田会館」で実施しています。最初は慣れない手つきでしたが、先生の指導のもと、小さな手で一生懸命お茶をたてるようになってきていました。そうした成長を、老人クラブの方々も、自分の孫を見るかのように、うれしそうに見つめています。こうした活動を通じ、老人クラブの方々も保育園を訪問し、昔の遊びを教えて一緒に遊んだり、保育園児の遊戯を見て楽しんだり、世代を越えた交流が深まっています。また子どもたちも、茶道を通じて、礼儀の大切さや、他を思いやる優しさなどを学ぶことができました。



【茶道教室】

これまでの 成果や 今後の予定

活動の拠点が整備されたことにより、従来の地域活動がより充実したものとなり、各教室への参加者も増加してきています。なかでも料理教室は、地域の伝統料理の継承だけでなく、食育の推進を目標に、活動の深化を図っています。こうした活動を通じ、地域住民の交流が深まり、世代を越えた交流も生まれてきています。また、「下司大名行列」の継承活動も行われ、道具類の管理と修理が進んだため、さらに華やかさを増したものになりました。今後も、地域の歴史や文化・伝統を学ぶ活動を充実させ、地域行事を活性化させていくとともに、より多くの地域住民の参画を進めるため、広報活動や情報収集のさらなる推進に努めていきます。

拠点施設



市立塩田会館

《主な整備内容：改修》

- 講義室兼図書室をコンピュータ室に改修
- 調理室、ロビーの改修
- 活動に要する備品類の充実整備（大名行列用具展示用ケース、屋外用移動テント等）

連絡先

塩田地域交流広場推進委員会

TEL / FAX 0799-62-4033 E-mail : shiota-hiroba@zeus.eonet.ne.jp